



山崎高等学校に縁のある「ひと・こと・もの」をつなぐ年会誌

山 高

No.
62

兵庫県立山崎高等学校同窓会報

題字：元会長 大西 耕雲 氏(第3回生)

■発行日／令和6年12月1日 ■発行所／兵庫県立山崎高等学校同窓会 <http://www.yamako-dosokai.jp/> ■印刷所／(有)マウス



主な内容

○山崎高等学校彩人

松 本 貞 人 波賀元気づくりネットワーク協議会会長

○がんばってます卒業生

阪 本 拓 海 日本製鉄株式会社 瀬戸内製鉄所 広畑地区
柳 田 爽 高知大学人文社会科学部

○同窓会実施報告

○回生だより

ご挨拶



同窓会会長

三谷 恭三

(第24回生)

令和5年の春に、それまでのコロナ感染症2類が解除され5類相当となつて以来、私たちを取り巻く環境はようやく以前の日常を取り戻したかに思えますが、皆様にはお健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。各地で、各学年・各クラスの同窓会も本格的に始動されているようで、東京六栗会や山高阪神支部総会も令和5年度には盛大に復活をいただいたところでです。

令和6年度がスタートして、6月には当同窓会の理事総会を開催しましたところ、多くの理事の皆さんにご出席をいただき、滞りなく議事を終えました。役員を代表して心から御礼を申し上げます。特に本年の総会は、久しぶりに山高の校内にあり、まず同窓会館で開催いたしました。出席いただいた皆様にも懐かしい想

いを抱いていただけたことと存じます。

また総会終了後には、第32回生（昭和55年卒）の3年9組有志にこの春からボランティアで運営をしていただいております生徒食堂で、昼食を召し上がっていただき、大いに盛り上がりしました。39（サンキュー）食堂のスタッフの皆さん、誠にありがとうございました。

さて本同窓会は、皆さんご存じの通り会員相互の親睦はもとより、本校在校生の支援もその重要な活動目的と位置付けております。各クラブ活動支援や夏休み期間の短期留学支援・進路指導支援等々、これまでもそしてこれからも可能な限りの応援をしていきたいと思っています。そのためにも同窓生の皆さんの力強いお力添え無くしては成り立ちません。どうかこの同窓会誌「山高」の協力をはじめとして、母校に資するためになお一層力強いご支援を賜りたくお願い申し上げます。

昨年もお知らせしておりますが兵庫県教育委員会は令和7年度春に、県立高校の再編の一環で、西播磨では福崎と夢前を、播磨福崎高校、姫路南と網干と家島を、姫路海稜高

校として開校する予定です。さらに令和9年春には、第2弾の再編が実施される予定で、六栗の3校もその対象になるようで、令和7年秋にはその概要が発表されるようです。

奇しくも、山高は令和9年に創立120周年を迎えます。山高がこれからは【地域の教育の拠点】・【地域のよりどころ】として存在し続けるためにも、同窓会としてできることを真剣に考えていきたいと思っております。どうか皆様にもこのことに注視いただき、ご意見をお寄せいただくようお願い申し上げます。

ご挨拶



校長

塚本 師仁

同窓会の皆様には、平素より本校の教育活動の推進にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。私は、本年4月に県立龍野高等学校から着任いたしました塚本師

仁（のりひと）でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私事になりますが、本校は私が恩師と慕っていた先生の母校です。勉学に打ち込めず不甲斐なく自堕落な毎日を過ごしていた高校生の私に、恩師はいつもさりげなく言葉をかけてくださいました。私は、その先生のあたたかいお人柄に触れたことがきっかけで、教職の道を志すようになったものですから、このたびの本校への着任にあたり、私に生涯の職との縁をつないでくださった先生の母校が、私が教員生活を全うしようとする学校になろうとはと、縁の不思議さを感じずにはおれませんでした。4月、県下の高等学校の中でも夙に有名な本校の桜並木が満開となつて校舎を包む様を眺めながら、これもきっと、恩師や同窓生の皆様が新年度の門出を祝してくださっているのだと、心の内で感謝いたした次第でございます。

さて、令和元年末から猛威を振るつた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束とともに、本校では昨年度より、ほぼ制約のない教育活動を展開しております。

6月の山高祭（文化祭）は、テ-

マ「一祭合祭」今咲き誇る花になれ」のもと、校歌と自由曲からなる合唱コンクールやステージ発表、文化部の展示・発表、食品バザーなど、随所に山高生の温かさや情熱が溢れておりました。9月の体育大会も、昨年からの復活したフォークダンスに職員も加わり、リレーにおいても職員が6チーム参加するなどし、生徒・職員が一体となって「チーム山高」として大いに盛り上がりました。

一方、学習面における取り組みとしては、同窓会のご支援を頂きながら、第1学年を対象として、7月末に岡山大学を訪問し、本校卒業生である藤井浩樹教育学部教授から特別講義を頂戴いたしました。また、第2学年を対象としましては、10月に兵庫教育大学、鳥取大学、兵庫県立大学工学部を訪問し、本校生が大学の研究に直接触れる機会を設けました。

さらに、森と食科では、農業を学ぶ高校生が日頃の学習や研究の成果を競う兵庫県学校農業クラブ連盟大会の農業鑑定競技（森林）において、森林環境を学ぶ第3学年の生徒が見事最優秀賞を受賞し、10月に岩手県で開催された全国大会に出場しまし

た。また、農産・食品を学ぶ生徒は、全員が全国高等学校家庭科食物調理技術検定1級に合格しております。加えて、「兵庫の食の魅力を発信するメニュー」として本校生徒が考案したものが採用され、現在、西日本高速道路のSAで提供されています。

地域の活動としては、今年度も引き続き、生徒会役員や有志の生徒が耕作放棄地の除草作業や高齢者宅を訪問し、社会福祉協議会が作られたお弁当を届ける配食サービスボランティアを行いました。また、「くのみ祭り」や「もみじ祭り」などの地域行事にも積極的に参加し、地域の活性化に大いに貢献してくれています。

重要なことは、このような活動が展開・継続できるのは、今ある学校規模が維持できてこそだということです。現在、県立高等学校教育改革第3次実施計画に基づいた発展的統合が行われ、報道されているところですが、今後、宍粟市を含む地域でも高校再編の動きが予想されます。しかし、宍粟の中心校である本校には、地域を支え、リーダーを育み、輝き続ける使命があります。今後も

本校の卓越した伝統を継承し、教職員が一人となり、各界、あらゆる分野で活躍できる生徒を育成して参りますので、同窓会の皆様には引き続き一層のご理解とご支援をいただきますよう、心からお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

副会長を終えて 思い出の「マ



宇野正憲
(第17回生)

昭和37年4月第17回生として入学、昭和40年3月卒業、木造2階建て校舎、大変感じの良い学校、生徒会歌がとても素晴らしい。球技大会はどのクラスも目の色を変えて勝敗にこだわり取り組んでいました。体育大会もその影響か学生運動の波及か？16回生が応援方法を巡ってバリエードで教室に立てこもり意思を示されました（結果は記憶してません）。

大学を卒業後、県内の高校に勤務

し3校目として山高に31才の時赴任しました。未だ懐かしの校舎は全部残っておりまして。18年間勤務させて頂きました。

70周年記念事業で庭園の石碑に校歌の歌詞を刻むことで書いて頂く方の人選で難航していました。協議の結果、私の旧同僚で書道家の畑林均（高校20回）さんに書いてもらうことに決まり、小林石材店で石碑と同じサイズのゴムシートに何回も書いては消し書いては消し、彼の納得がいくまで書いて頂きました。半日以上かけて完成。夕方になってしまい、社長の取ってこられた松茸の入ったすき焼きをご馳走になりました。大変美味しかったです。畑林さんは高校の教師をしながら、書道界で活躍され2度の日展特選に選ばれました。阪神淡路大震災時に県立御影高校に勤務されており、避難所管理の激務が影響し、54才の若さで亡くなられました。全日本美術（業界月間新聞）に畑林畊陽（こうよう）香環会、次時代のホープ、魁星の輝き……と彼の死を無念とする記事があります。体育館の緞帳を同窓会で寄附する事になりました。デザインは名古屋の大学で教鞭を執られていた秦誠

(高校21回)先生(日本画家)に依頼しました。名古屋からこのためにお戻り頂いて、町内の喫茶店(マイウェイ)でお会いして詳細の打ち合わせをしました。作成費は固持されたのでお車料という名目で少しだけ包ませて頂きました。故郷を周遊され、揖保川十二波あたりをモチーフに作成頂きました。原画は体育館の玄関に飾られていると思います。本体も永年の経過で色あせてきております。周年行事とか機会があれば綺麗にして欲しいですね。製作は元会長の本條さん(高校16回)・南光さん(高校16回)のお世話でヤマトヤシキを通じて京都西陣の川島織物に決まりました。価格500万円。

「同窓会便り」に寄附の具体的依頼を掲載し、地元では宍粟郡内各小学校区に担当者を委嘱し、更に自治会単位担当者を依頼し、一口2000円で奉加帳を回し寄附を募りました。事務室で寄附が集まりやすいように減税措置認定を近畿税務局に申請して承認を頂きました。担当の私は寄附が集まりやすい方法の一つが出来たくらいの受け取りでした。その時は細部については聞いておりませんでした。必要があるとも

思っていました。締め切り近くなり「税務署に報告をして下さい」と連絡を受けました。控除希望者はわずか1名でした。このことを報告すれば良いのかくらいに思っていたら、「申請額500万で寄附を終了すること、経費5%≒25万の領収書、寄附者の氏名、住所、金額一覧を提出する」ことでした。寄附の多くは、自治会単位や小学校単位で学校の事務局に持参して頂くか、口座振り込みをしてもらう方法でした。奉加帳に氏名・住所・金額の記入が抜けているものはまだしも、奉加帳なしで、現金だけのものや、郵便振込も記載がまちまちでしたが、スタッフは全てボランティアなので、金額確認し、領収書を出すのが精一杯の状態でした。「さて！偉いことになった、500万で終了宣言を出す」とは。一生懸命集めていただいている関係者に「目標額になりましたので、もう結構です」とはとても言えません。その間も次々お金は持参や振込で入金され、その頃おおよそ1000万円位となっていました。対応を同窓会事務局で相談するが名案は出ません。そこで、私の後輩(小・中・高)で、故T(高校21回)

さんが税務署に勤務されておることを知っていましたので実家で連絡先を聞き相談しました。彼から一度会いたいと連絡があり、大阪税務局に行きました。事情を説明したところ、結論「500万円分の名簿・経費5%≒25万を作って持参して下さい」それで処理しましょう。私はわかつている分の資料を抽出し、一覧表を大阪国税局に無事に届けることができました。お世話になったTさんありがとうございました。

最後になりましたが、秋田会長を始め各会長の下で18年間副会長を勤めさせて頂きました。ありがとうございました。同窓会・同窓会会員皆様の益々の発展を願いたしております。近年、高校の統廃合のニュースが流れていますが、是非山高の名前を残して欲しいです。同窓生として一緒に声を上げましょう。

ご挨拶



山崎高等学校
同窓会副会長

安井 洋子
(第39回生)

同窓会会員の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたび、伝統と歴史のある山崎高校同窓会の副会長を恐れ多くも拝命いたしました。

これまで、同窓会活動に関わることはあまり多くありませんでしたが、毎年届けていただくと同窓会報で、卒業生の皆さまが各方面で素晴らしい活躍をなさっている記事を拝読し、自分のことのように誇らしく感じておりました。会報が届くたび、つい、山高の卒業アルバムをめくり、懐かしさと時の移ろいを感じています。

高校生時代、自宅から高校までの片道約10キロの道のりを毎日、親友たちと話を交わしながら自転車を通った日々や、図書室で大好きな本を読みながら長い時間を過ごした



ことを鮮明に覚えています。私にとって大切な青春の日々でした。

今回、このようなご縁をいただいたことに感謝し、育てていただいた母校並びに同窓会の皆さまに少しでも恩返しができればとの思いでお引き受けしました。大変微力ではございますが、同窓会会員の皆さまの温かいご支援ご協力をいただきながら、女性や若い世代の方にも多数参加していただけるような同窓会にしていけるようお手伝いができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

末尾ながら、同窓会の皆様方のご健勝と益々のご活躍、そして、母校山崎高校の発展を心よりお祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

プロフィール

1968年(昭和43年)山崎町生まれ

山崎町在住

山崎高校普通科 卒業

卒業後は山崎町役場・宍粟市役所に

勤務(在職中)

趣味…読書、韓国ドラマ鑑賞、

ゴルフ(まだまだ初心者です)

令和6年

兵庫県立山崎高等学校 同窓会理事会のご報告

向寒のみぎり、皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は会員の皆様には山崎高等学校同窓会運営にご協力賜り誠にありがとうございます。

さて、去る6月15日(土)山崎高等学校同窓会館にて山崎高等学校同窓会理事総会をご来賓に宍粟市長と教育長のご臨席を賜り、学校関係者をはじめ多数の方々のご出席をいただきました。

三谷恭三同窓会会長と塚本師仁学校長に続き、ご来賓の福元晶三宍粟市長様と中田直人教育長様のご挨拶のあと、司会の安井唯善副会長の案内により恒例の自己紹介となりました。その中では「この同窓会館へ来るのが初めてだ」と話される方が大勢いらつしやり会館使用の意義を感じました。議事では事務局より令和5年度の事業報告、会計報告の後、志水昭彦氏より会計監査報告、また令和6年度の事業計画・予算についても慎重審議され

全て承認されました。この度、副会長宇野正憲氏の退任により安井洋子氏が推薦され副会長就任を承認されました。宇野正憲氏は山崎高等学校勤務時代より、同窓会事務局をされ長年にわたり貢献されましたこと、心より感謝致します。ありがとうございます。出席者全員で同窓会制作のCDに合わせて校歌及び生徒会歌を歌い、事務局より同窓会会報62号「山高」の発行に際し寄稿の依頼があり、すべて滞りなく進行了しました。

その後、体育館棟にある生徒集会所【39食堂】(サンキューしよくどう)へ移動しました。【39食堂】は山崎高等学校第32回生3年9組メンバー11人が立ち上げ、テレビでも取り上げられました。食堂オープンの際を中津理事より映像による紹介をいただいたのち、食堂スタッフ手作りの豪華でおいしいお弁当をいただき解散となりました。今後も山高生の元気を応援して下さること、大変心強くおなかもいっぱい心もいっぱいとなりました。同窓会の皆様、今後とも倍旧のご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

副会長 谷笹摩弥(第34回生)

山崎高等学校

人彩

波賀森林鉄道
復活の夢波賀元気づくりネットワーク協議会
会長

松本 貞人

(第31回生)



「いやー、正直こんなに夢中になるとは思わなかった」

2018年3月、宍粟市波賀町内で特産品づくりやまちづくりの分野で活動する12のグループが集まり、「波賀元気づくりネットワーク協議会」を結成しました。事の始まりは、わたしが所属する「メイプルタウンクラブ」の若者が言った「森林鉄道廃線跡のサイクリングロードをまちづくりに活かさせませんか」との何気ない一言からこの物語はスタートします。

鉄道のないまち宍粟市にかつて国有林内を走る森林鉄道がありました。宍粟市波賀町は面積の約93%が森林で、その約43%を国有林が占めています。江戸時代、良質の木材と鉄、当時の主燃料である木炭を産出することから幕府の領地とされ、明治になって、明治政府の官林となりました。

波賀森林鉄道は、国有林から木材を搬出するため、大正期から昭和43(1968)年の閉鉄まで、1つの幹線と6つの支線から総延長40km以上ともいわれる森林鉄道網をつくり、赤西・音水を中心とするこの一帯は、最盛期には大阪営林局のドル箱と呼ばれていました。

わたしたち協議会が波賀森林鉄道の古い写真の収集や写真展の開催など、周知活動が続けていると、地域の古きから終焉の地となった「中音水（なかおんずい）」には今も遺構が残っている

と教えられ、現地踏査に入りました。風倒木に前を遮られながら進んだ先には、当時の最先端技術を駆使して架設され今は苔むした数々の橋梁、カーブを描く隧道、宿舍跡に残された五右衛門風呂やかまど跡、酒宴の後に残された一升瓶とビール瓶。半世紀もの時が止まった光景です。そして再奥地には、天から落ちる名瀑。わたしたちは、山にぎやかだった往時を思い浮かべ、先人の営みに敬服し、この廃線遺構を世に出そうと、その後の活動へと転換していきます。今、遺構トレッキングツアーの実現に向け、準備を進めています。

それから、わたしたち「波賀元気づくりネットワーク協議会」は仲間を増やし「波賀森林鉄道復活プロジェクトチーム」を結成し、一方で「波賀森林鉄道復活の夢」に挑戦していきます。正確にいうと、観光宿泊施設フォレストステーション波賀地内に新軌道を整備し機関車を走らせることです。

敷設には、チームのメンバーだけでなく、町内、市内、県内外から多くのボランティアの方が参加してくださいました。枕木とレールの設置、犬釘打ち、トロッキによる碎石運びと均し作業。記録的な猛暑の中、安全が第一。水分と塩分の補給、笑顔と笑い、感謝の言葉は欠かすことができません。人が人を呼び、笑いが笑顔を引き出しネットワークの輪が次々と広がって

きました。

鉄道敷設の知識を持たない素人集団のわたしたちは少しずつ知識と技術を習得し、波賀森林鉄道閉鉄55周年の昨年8月に108mの周回コースを整備し、波賀森林鉄道開鉄100周年の今年10月に総延長678mのコースを完成させました。9月末、執筆時点では9割が完成しています。読者の皆様、無事に完成し森林の中を機関車が走っていますか。

波賀森林鉄道

「これまでの100年を継承し、この先100年へ」



がんばってます 卒業生

日本製鉄株式会社
瀬戸内製鉄所 広畑地区

阪本 拓海

(第76回生)



高校を卒業してから約5か月が経ちました。私は4月から日本製鉄株式会社に就職し、高校生から社会人という立場に変わりました。就職したての頃は、瀬戸内と東予と堺の新入社員で研修をしていて分からないことだらけでしたが、今では仕事や人間関係にも慣れてきました。

仕事をいざ始めてみてからは、肉体的にしんどかったり精神面でもしんどかったりしてとても大変でした。学生の頃は自分がしたいことをし、嫌なことはしなくても誰かがやってくれる場面があったと思いますが、今では自分のしたいことをあまり優先できないことの方が多いで

す。また、社会人になったことで、礼儀やマナー、自分の行動一つ一つに責任を持たないといけないことなども大変だと感じました。しかし、大変である一方で、学べることも多く、充実した日々を送っています。

また、学生の立場では想像することしかできなかった親や働いている人の苦勞を、働くことを通して実感しました。これまで支えてくれた親や先生方には感謝しかありません。

在校生の皆さんは今これからの未来を考えている頃だと思います。僕自身も、就職することは決めていましたが、どこにしたらいいかなど分からないことばかりで不安でした。しかし今となつてはたくさん悩んだことも大切な過程だったと思います。進路の先生に要望を伝えて相談にのってもらうなど、自分ときちんと向き合つて決めた進路なら、どんな未来でも頑張れると思います。逆に中途半端な気持ちで進んでしまうと、辞めたくなくなったりしんどくなったりしてしまうので今考えている期間が大切なのだと思います。自分のやりたいこと、進路先を頑張つて見つけてください。応援しています。

がんばってます 卒業生

高知大学 人文社会科学部
人文科学コース 1年生

柳田 爽

(第76回生)



私が山崎高校を卒業してもうこんな時に経ったのかと感じると同時に5か月も楽しい大学生活を送っていたのだなと思う今日この頃です。私は高知大学に進学をし、学んでいます。私はまだ1回生なので専門的な内容をほとんど学んでいませんが、共通教育科目にも面白いものは多々あるので楽しく学んでいます。

皆さんもご存じかと思いますが、高知は自然が豊かです。私はその自然を活かした仁淀ブルーと呼ばれる清流でカヌーやサップのアクティビティのアルバイ

トをしています。

また、高知はおおらかな性格の方が多く、すぐに友達ができます。ですから、在校生のみならずの中で高知大学を考えている人は、安心して高知大学に来てください。

話は変わりますが、大学進学をし、一人暮らしをすることで私は家族のありがたさを感じました。今までは何もしなくても食事が準備され、洗濯・掃除がされるなど様々なサポートを受けていたのが非常に快適に生活していましたが、それを自分自身でしなければならぬというのはとても大変です。そこで家族のありがたさがよくわかりました。

こうして楽しく学んで元気に過ごせているのも、家族や先生方をはじめとした多くの皆さんのおかげなので、ことあるごとに「ありがとうございます」と感謝の言葉を伝えるように心掛けています。

とりとめの文章でしたが読んでいただきありがとうございます。

山崎高校同窓会阪神支部の第11回総会について(ご案内)

山崎高校同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。

平成25年設立の阪神支部ですが、令和6年1月28日に4年ぶりに第10回総会を開催することができました。今年度も第11回総会を下記のとおり開催しますので、ご案内いたします。

お忙しいとは存じますが、在住・在勤の地域にこだわりませんので、お知り合いの同窓生の方をお誘いの上、是非ご参加ください。特に、若手の方や新社会人の方の参加を心よりお待ちしております。(ご出席の連絡は、下記連絡先までお願いします。)

なお、令和6年9月21日に理事会を開催し(神戸市兵庫区:清童にて)、第11回総会開催の決定、若い会員が増えない課題等について話し合いました。

- 日 時／令和7年1月26日(日) 12時～14時
- 会 費／6,000円(飲食代) ※但し、新社会人は1,000円
- 場 所／萬壽殿(最寄駅:JR・阪急・阪神・地下鉄「三宮駅等」)
神戸市中央区中山手通2-20-4 TEL:078-231-4531

ご出席いただける方は、12月31日までに次によりご連絡願います。

- 連 絡 先／〒655-0048 神戸市垂水区西舞子6-3-70-603
森下二三哉 宛て
- 連絡方法／「メール」若しくは「はがき」
メールアドレス:sp3x8a99@helen.ocn.ne.jp
電話番号:078-783-8945 携帯:090-3038-0676
- 連絡内容／お名前(改姓の方は旧姓も記載願います。)
卒業年次、住所、電話番号



【山崎高校同窓会 阪神支部】

支 部 長 築谷 尚嗣 (S46年卒)
副支部長 大谷 武徳 (S49年卒)
衣笠 達也 (S53年卒)
事 務 局 森下二三哉 (S56年卒)

喜寿を迎えて

第18回生 小林 基 弘

少子化対策がにぎやかに語られています。戦後直後に生まれた団塊の世代の私達も、ついに喜寿を迎える年齢となりました。

小・中学校は50数名のすし詰め学級、高校進学時には学級増運動が起こり、分校だった伊和高校は独立し、山高は9クラス約430名(内1クラスは千種分校)となりました。(昭和22年生まれは260万人、令和5年は77万7千人)人口増と進学率の急速な上昇に伴う受験競争の激しい中、記録によると山高の昭和41年の大学合格者は258人(国公立は50人)でした。

学生運動の騒々しい中で大学生を送り、経済大国と言われた実社会では毎日満員電車で押し込まれ、企業戦士とかモータリゼーションと呼ばれてバブル経済の全盛と崩壊を経験し、中高年になるとIT化に困惑しました。

引退後は親の介護等で帰郷すると、田舎の生活の変貌に驚き、高齢化による様々な地域の問題に戸惑いつつも、郷里の豊かな自然や温かい人間

性に癒され、野菜作りにいそしむなど、持病があってもこの平凡な日々が豊かな人生かなと思われまふ。

また、昨秋には喜寿を迎えての同窓会が開催されました。長らく音信不通であった者も全く異なる仕事や生活歴の者も、若い時の出会いには特別の絆があります。いつまでも話が弾む仲間、終盤に至った人生に潤いと元気をもたらす大切な存在です。



昭和46年卒業 3年4組同窓会

第23回生 阿 曽 経 生

私達は昭和46年卒業の3年4組です。

今年は私達の干支(辰年)の節目の年であり、同窓会をやるうと言う声が出て、さる3月16日「伊沢の里」にて開催しました。

私達のクラスは男子16名(鬼籍2名)女子28名の44名です。当日の参加は男子11名、女子17名の高参加率で、遠くは九州からの参加者もありました。

会場では先ず恩師の片山先生と亡き友二人への黙とうをささげ、同窓会が開催できたことに感謝し3年4組のみなさんが現状維持でこれからも元気で過ごせることを願って乾杯しました。乾杯が終わると同時に話の花が咲きました。

高校時代の昭和、平成、令和の今日へと移行する中で人生経験を積まれいろんな話題が出ました。

自分の両親の介護、義理の両親の介護、もちろん自分の伴侶のこと、自分の子供・孫達のこと。

でも一番多いのは自分の健



康の話題のようでした。自分の病の事、飲んでいる薬の事、通っているリハビリの事、これから先お世話になるであろう施設の事、もう少し先のお墓の事等々、予定の時間をオーバーしても話が尽きませんでした。

当日の集合写真を撮り、参加できなかった方にも送りました。

次回も元気で会おうと約束して最後に全員で「高校三年生」を大合唱して閉会しました。

昭和46年卒業 3年7組クラス会の報告

第23回生 谷口やよい

寒い日が続いておりましたが、3月に入りやっと春の気配を感じる頃となりました。

在学時にお世話になりました諸先生方、そして諸先輩方、同窓の皆様お元気で過ごしてでしょうか。

私達3年7組(昭和46年卒業46名)は、さる3月8日、5年半振りとなるクラス会を「ホテルモントレ姫路」において開催しました。

私達のクラスは、個性的な人が多かったと思うのですが、不思議とまとまりが良く、卒業したその夏にはもうクラス会を開いており、通算で7回目となります。

ただ、今回はコロナ禍による自粛が影響し、古希を過ぎでの開催となりました。

また、毎回参加し、会を盛り上げてくれていた二人を昨年失い、さらに数人が病氣療養中であるなど、彼らの笑顔が浮かんでくるものの、複雑な思いで迎えたクラス会となりました。でもみんなに出会い、顔を見て「頑張ろうね!」と励ましあったら本当に元気な気持ちになりました。



年老いていくほど、同級生が大事な存在になる気がします。次回のクラス会は、喜寿をめざしてです。老いは、確実にやって来るでしょうが、みんなにもらったパワーで健康を維持し、また会える日を楽しみに過ごしていきたいと思えます。

最後になりますが、皆様方の今後益々のご健勝、併せて山崎高等学校のご発展をご祈念申し上げます。ご報告とさせていただきます。

回生だより



〜元氣ですごしています〜

古稀そして傘寿

第15回生 村上 征雄

地元在住者による第1回同窓会、そして2年毎に各中学持廻りも一巡した第7回で途絶えてしまいました。紆余曲折の後、古稀に当たる平成26年10月に再び実施の運びとなり、124名の方に案内状を差し上げ、48名の方の出席を賜りました。

当日は、旧交を温め懐古談に花を咲かせました。以降2年毎に実施するも、2020年のコロナ禍に途絶えましたが、傘寿に当たる本年以降には状況を鑑み、何とか再開に漕ぎ着け続けたいと考えています。

嗚呼 啓明寮

第22回生 秋久澄子
(旧姓武野)

私が入学とともに啓明寮に入寮したのは57年前の昭和42年4月のことでした。現在の山崎西中学校の正門の南側にあり、中央に食堂、北側に女子寮、南側に男子寮、その南隣に6人くらいが利用できる男性教職員のための独身寮がありました。

ランダムな思い出ですが、普段の生活の中で唯一の暖房は30畳1室で1個の火鉢があり、炭をいこすのは1年生が担当でした。朝晩にテンコ(点呼)があり、土曜の夜には半数以上キセイ(帰省)する者がいました。入った当初は言葉の意味が分から

ず、頭の中はカタカナで覚えていました。

体育の授業で履いていたトレパンと呼ばれていたズボンはお尻の所が再々破れ、女子寮の玄関まで持つて行き繕って貰ったことも記憶にあります。このことも先輩から教わった知恵でした。少し恥ずかしかった記憶があります。

また、独身寮の先生のギターで「夜霧のしのび逢い」を一緒に演奏したこともありました。楽しい時間でした。詳しく書きませんがワクワクの女子寮とのフォークダンスの開催、年に一度のかくし芸大会など率先して取り組んだことを覚えています。

目くるめく、このような当時の出来事や啓明寮の景色を思い出す度、同級生、先輩、そして独身寮の先生方との関係や生活は普段の学校生活よりも信頼感、協調性、充実感が強く、濃くもありました。

ザ・ロング・アンド・ワイディング・ロードとここから私達の青春が始まりました。



同窓会をしましろう

第33回生 坂上 彰

皆様如何お過ごしですか。私は昭和56年卒で早や62歳。実家は実栗山崎で神戸単身25年。お蔭様で健康で元気に仕事をしています。山崎高校を卒業後、就職して色んなご縁に助けて貰いながら歳を重ね、今日がある事に感謝の念が堪えません。これからは過去・現在・未来の繋がりのように今に満足しないことで先々が拓ける事を肝に銘じて、70歳80歳と健康で地元実栗が元気になるよう少しでも恩返しが出来ればと思っています。

久しぶりに同窓会をしたいのでクラスの皆様宜しくお願い致します。

山崎高校に

入学していなければ

第38回生 山本 信介

何の目標もなく学校に通っていた私は、毎日の部活動だけが唯一楽しい時間でした。

同じ部活動の同級生に助けってもらっていたと感謝しています。山崎



塚本様には大変失礼をいたしました。誠に申し訳ありませんでした。

誤 第24回生 塚元一彦
正 第24回生 塚本一彦

前回の同窓会報「山高」No.61（令和5年12月1日発行）で、寄稿者のお名前に誤りがありましたので訂正してお詫びいたします。

お詫びと訂正

高校に入学していなければ、自分の人生は今とは違っていただろう。在校生の皆さん、目標・夢をもつてかけがえのない友と高校生活を全力で楽しんでください。
高校生活をもう一度と願っても誰も戻ることできません。
がんばろう山高生！

39食堂開店

第32回生 杉本千穂

昨年度に閉店していた食堂が、令和6年4月23日「39食堂」として復活しました。食堂を運営するのは、シニア世代の同窓生第32回生3年9組のクラスメイト11名です。山高食堂の危機を知り、在校生が昼食に困らないようにという思いで集まりました。開店準備には3年9組はもとより、他のクラスの同窓生から食器・調理器具の持ち寄りや厨房の清掃など温かい協力をいただき感謝しています。
メニューは、定食・ラーメン・豚丼・カレーライス等日替わりで提供しています。昔懐かしい黄色いそば（39そば）も復活させました。
開店当初から、多くの生徒さんに来店いただき昼休みに行列ができて賑わっています。スタッフは生徒さんとの交流を楽しみながら、安全によりおいしい食事が提供できるよう頑張っております。これからの運営で応援していただける仲間や食材の調達情報など募集していますので、ど



うかよろしくお願いいたします。
最後になりましたが、開店に際しましてご協力いただきました皆様誠にありがとうございます。

協力金のお願い

＊「山高」は皆さまお一人おひとりの力で発行されています＊

毎年ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この山崎高等学校同窓会報『山高』は母校や同窓生の近況をお知らせし、母校の発展と同窓生の活躍の糧となることを念じて発行させていただいておりますが、その費用は皆さまの協力金で運営されています。出費多大の折とは存じ上げますが、引き続きお一人おひとりのご協力を是非お願いいたします。

事務局より

普通科教育類型の取り組み

教育類型の基本方針は、「保育園・こども園・小学校・中学校等での実習や交流を通して、コミュニケーション能力や実践的指導力を高めると共に、大学との連携を図り、専門的な知識や技能を身につけ、将来教員や地域のリーダーとして活躍できる人材を育成する」です。

平成29年4月にスタートし、今年で8年目を迎えます。現在、6期生(77回生)・7期生(78回生)・8期生(79回生)が進路目標実現に向けて様々な活動に取り組んでいます。

1期生(72回生)の多くは今春大学を卒業し、学校現場をはじめ実社会での活躍が始まっています。また今春本校を卒業した5期生(76回生)は、連携協定を結んでいる3大学(兵庫教育大・関西福祉大・神戸親和)すべてに進学するなど、活動の成果が出ています。

校外で活動する機会も多く、山崎高校をPRする役割も担っています。

【今年度の具体的な活動内容】

1年生

- 神戸親和大学教授による教育概論講演会
- いえしま自然体験センターでの自然体験実習
- 県教育委員会教職員人事課によるガイダンス
- 氷ノ山登山実習
- 神戸親和大学教授によるストレスマネジメント講演会
- ちくさ高原でのスキー実習



79回生 自然体験実習



78回生 模擬授業

2年生

- 神野小学校がんばりタイムの補助
- 戸原こども園での実習
- オープンハイスクールでの説明、模擬授業
- 山崎小学校での観察実習、授業実習
- 兵庫教育大学での体験プログラム
- 関西福祉大学での体験プログラム
- グループディスカッション演習

3年生

- 授業観察実習および研究レポート発表
(出身中学校や近隣中学校にて)
- 山崎聖旨保育園での実習(保育系進学希望者)
- プレゼンテーション演習および面接練習
- 校内研究発表会(類型の1・2年生を対象に)



77回生 研究レポート発表

農業鑑定競技に参加して

兵庫県立山崎高等学校

森と食科3年 埴岡天翔

私は10月23日から24日にかけて岩手県、花巻農業高校で行われた農業鑑定競技の全国大会に参加しました。花巻農業高校は、詩人で、童話作家の宮沢賢治が教員を務めた高校として知られており、敷地内に宮沢賢治の別荘もあります。

全国大会への出場は3年間で初めてなので、とても緊張していましたが、校長先生や引率の先生の応援もあり、少し緊張を解くことができました。農業鑑定競技の部門だけで千人ほど参加しており、高校の敷地内には農業高校生でいっぱいでした。

農業高校生がこれだけ集まっているのはとても新鮮に感じました。校舎に入り、教室で待機して勉強している間、会場全体にピンとした空気が張り詰めており、一人ひとりがとても緊張感をもって競技に挑んでいたことが印象に残っています。

競技が始まり、問題を前にして解いていると、過去問で出た部分も多くありました。やはり県大会と比べて難易度が上がっており、後半や計算問題は解き終えることができませんでした。

次の日、結果が出ましたが、やはり賞は取れておらず、詰めの甘さを

実感しました。式典が始まり、プロジェクト発表と意見発表の最優秀者の発表を聞きましたが、とてもレベルが高く、課題研究の参考になりました。特に印象に残っているのは、廃棄するもみ殻を活用し、土壌の改良に使用するプロジェクトです。このプロジェクトは米農家の負担を軽減すると同時に作物の育成に大きなメリットを得ることができたため、地域だけでなく全国で活用できる研究だと感じました。また、意見発表では、家業の牧場で育てている牛のメタンガスを減らす取り組みについての発表があり、大学や企業と連携して取り組んでいると聞き、驚きました。

賞を取ることはできませんでしたが、学びの多い全国大会になったので、今後、進学や就職をしてからも活用していきたいです。また、全国大会に行くまでにサポートしていただいた先生や家族、友達に改めて感謝したいと感じました。

クラブ員代表者会議に参加して

兵庫県立山崎高等学校

森と食科2年 坂元絢美

私はクラブ員代表者会議に参加して、今まで知ることのできなかった

ことをたくさん知ることができました。例えば、私たちの高校では実施したことがなかった地域の人や小さな子どもたちと関わって季節に合わせたイベントや交流会の実施をしたりすることなどです。その他にも子どもたちに料理を提供するレストランの取り組みなどいろいろな活動を行っていることができてきました。

事例発表の質疑応答の時間では、それぞれが気になったことを質問していて、答えてくれる側をとっても分かりやすく教えてくれました。

事例発表をしてくださった若狭東高等学校の発表の良かった所やこれから改善できる点を班のみんなと話し合い、付箋にそれぞれ自分の意見を書き、それを模造紙に貼りまとめました。まとめ方も班ごとに見やすく工夫してまとめていました。良かった点として多く上がったのが、「事例ごとに写真がついていて見やすかった」「ハキハキ話していて聞き取りやすかった」などありました。

改善点として多かったのが、「お客様の意見も取り入れるためにアンケートの実施を行ったらいい」「自分たちだけで行うのではなく地域の人も巻き込んで実施すればいい」などといった意見がありました。出た意見を分かりやすくするときは、みんなで話し合いコミュニケーションをとりながらまとめてい

ました。班の中で代表で発表する人を決めみんなの前で意見を発表しました。

第2分科会では、「現在行っている学習やプロジェクト活動等が、地域の課題解決やSDGsにつながるためには、どのような行動をしているべきか」という話題について話し合いました。私たちの高校では、演習林で伐採した木材を使って子どもたちとペン立ての作成を行っていると発表しました。ですが、新型コロナウイルスの影響もあり、地域との交流が減ってきたため、学校の一環として農業高校らしい林業・農業の交流体験会や防災ボランティア活動など課題解決やSDGsの両方につながる活動をこれから行っていきたいと考えています。

他の学校の意見を聞くと、後継者不足や農家の高齢化などといった問題がありました。対策として今の私たち農業高校生たちが、さまざまな交流を通して農業の魅力を伝えていくことが大切だとわかりました。

このクラブ員代表者会議を通して、私たちの高校では考えられなかったことや、これから実施してみたい行事がたくさん見つかることができました。これからの活動に生かしていきたいなと思います。たくさん知識が得られた会議になりました。ありがとうございました。

部

活動の紹介
Club Activity

県総体、近畿大会を終えて

男子バレーボール部部长

石橋 広夢

私たち男子バレーボール部は、魚住先生、長生先生ご指導のもと、県総体ベスト16を勝ち取って近畿大会に出場すること、そのさらに上へ勝ち上がることを目標に、部員24人で日々練習に取り組んできました。その目標を達成するために、練習試合を重ね、そこで出た課題を中心に、日々の練習に取り組んできました。今年のチームは、ミスを重ねると段々チーム全体の雰囲気さが下がり、プレーの質が落ちることが課題であり、特に県総体直前は、自分達の雰囲気を、自分達で作れることを意識しながら練習に励みました。そして迎えた県総体、近畿大会出場を懸けた長田高校との試合では、1セット目を相手に奪われ、とても苦しい展開になりましたが、3年生を中心にチームがまとまり、2セット目からは自分達を取り戻すことができ、練習の成果を実感できました。ただその次のベスト8を懸けた尼崎北高校との試合では、フルセットの末に負けてしまい、ベスト16で近畿大会出場という結果となりました。

ました。

そしておよそ1か月後の近畿大会では、1回戦で大阪府の強豪、興國高校と戦いましたが、出だしから会場の雰囲気とレベルの高いバレーに圧倒されてしまい、県総体とは打って変わって自分達のバレーができず、ストレートで負けを喫し、チームとしては悔しい結果となりました。

県総体と近畿大会を終えて、私たちは大きな勝利と敗北を経験し、チームとしての結束力や個々の成長を感じることができました。3年生は近畿大会で引退となりましたが、これまで辛いことやしんどいことがあっても、諦めずにチームを引っ張ってくれたおかげで、目標のひとつである近畿大会出場を達成することができました。新チームは、昨シーズンで得られた経験を、これからの日々の練習に活かし、チーム一丸となって頑張っている最中です。

最後になりましたが、こういった日々の活動と、その結果としての近畿大会出場は、ご指導してくださった顧問の先生、近くで支えてくれた家族、地域の方々の応援があったおかげです。本当にありがとうございます。これからも男子バレーボールの応援をよろしくお願いします。



令和6年度 離着任職員一覧（敬称略）

離任職員

[転出先]

武田 由哉	校長	上郡高校
尾崎 隆博	事務長	山の学校
北山 新二	数学	退職
林 幹夫	理科	赤穂高校
塚 越 朋之	地歴・公民	川西緑台高校
清水 茜	英語	姫路南高校
近藤 実紅	事務職員	姫路工業高校
藤澤 丈二	技能主任	農業高校
中野 沙央梨	保健体育	退職
川本 早苗	養護担当	退職
竹本 康子	技能主事	西はりま特別支援学校

着任職員

[前任校]

塚本 師仁	校長	龍野高校
東道 恵子	事務長	県立大付属中・高校
茂上 亮平	数学	新採用
西本 洋一郎	理科	赤穂高校
長生 佳耶	地歴・公民	淡路三原高校
谷本 光輝	英語	新採用
下田 あい	新採用	事務職員
伊藤 浩三	技術主任	農業高校
立柳 貴光	保健体育	非常勤講師より
中井 麻起子	英語	非常勤講師より
小倉 恵梨	技能主事	

76回生 卒業生の進路状況

国公立大学

兵庫教育大学	1
鳥取大学	1
島根大学	1
高知大学	1
新見公立大学	1
合計	5

私立大学

流通経済大学	1
杏林大学	1
中京大学	1
東海学園大学	1
日本福祉大学	1
京都産業大学	2
佛教大学	2
嵯峨美術大学	1
大阪産業大学	2
大阪経済法科大学	6
大阪電気通信大学	1
関西大学	2
関西外国語大学	4
摂南大学	5
帝塚山学院大学	1
桃山学院大学	2
大手前大学	1
甲南大学	1
甲南女子大学	2
神戸学院大学	21
神戸国際大学	1
神戸女子大学	3
神戸親和大学	1
流通科学大学	1
関西福祉大学	8
神戸医療未来大学	1
姫路大学	2
神戸常盤大学	5
天理大学	1
岡山理科大学	9
川崎医療福祉大学	3
吉備国際大学	1
美作大学	1
広島国際大学	1
合計	96

※進学実績については、合格者数を示しています。

私立短期大学

大阪芸術大学短期大学部	2
関西外国語大学短期大学部	2
神戸女子短期大学	1
産業技術短期大学	2
四條畷学園短期大学	1
園田学園女子大学短期大学部	1
兵庫大学短期大学部	3
美作大学短期大学部	1
合計	13

看護医療系専門学校

姫路医療センター付属看護学校	1
相生市看護専門学校	1
姫路市医師会看護専門学校	3
姫路赤十字看護専門学校	1
兵庫県立総合衛生学院	1
兵庫徳誠会歯科衛生士学校	2
姫路歯科衛生専門学校	1
関西総合リハビリテーション専門学校	1
神戸総合医療専門学校	1
はくほう会医療専門学校	2
姫路医療専門学校	1
平成リハビリテーション専門学校	1
近畿医療専門学校	1
姫路ハーベスト医療福祉専門学校	1
合計	18

一般専門学校

アミューズ美容専門学校	1
アルファジャパン美容専門学校	4
ECCアーティスト美容専門学校	1
大阪ECO動物海洋専門学校	1
大阪スクールオブミュージック専門学校	1
大阪テーマパークダンス専門学校	1
大阪ペイ動物看護専門学校	1
大阪文化服装学院	1
関西美容専門学校	1
京都芸術デザイン専門学校	1
大原ビジネス公務員保育専門学校	5
神戸製菓専門学校	2
神戸電子専門学校	1
神戸動植物環境専門学校	2
神戸理容美容専門学校	1
トヨタ神戸自動車大学校	1
日本栄養専門学校	5
日本調理製菓専門学校	5

姫路情報システム専門学校	2
姫路ハーベスト医療福祉専門学校	1
姫路理容美容専門学校	2
放送芸術学院専門学校	2
代々木アニメーション学院	1
合計	43

公務員

宍粟市役所(事務職)	1
西はりま消防組合	1
自衛隊	2
合計	4

就職

栗賀ゴルフ倶楽部	1
医療法人社団おかだ歯科	1
ウツミ工業株式会社	1
株式会社エフピコ兵庫	2
虹技株式会社	1
コウノケ・エアポートサービス株式会社	1
株式会社香山建築	1
ザ グランリゾートプリンス有馬	1
山陽特殊製鋼株式会社	1
株式会社G-7・オート・サービス	1
株式会社G-7バイクワールド	1
株式会社JSP関西工場	1
株式会社JMUアムテック	1
児童養護施設二葉園	1
新宮三相電機株式会社	1
株式会社セイバン	1
株式会社西播設計	1
株式会社大和生研(117グループ)	1
株式会社トッパンパッカー・ジプロダクツ 福岡工場	1
トッパンプラスチック株式会社 福岡工場	2
西兵庫信用金庫	2
株式会社日本アレフ兵庫工場	1
株式会社日本触媒	1
日本製鉄株式会社 瀬戸内製鉄所 広畑地区	5
日本郵便株式会社 近畿支社	4
ハチ食品株式会社 兵庫工場	1
ハリマ農業協同組合	2
ブンセン株式会社	1
ヘラマンタイトン株式会社	3
株式会社ユメックス	1
合計	43

同窓会報「山高」への寄稿のお願い

- 回生便り 内 容：近況報告や回想など自由に寄稿ください。
文字数：200字程度
- 同窓会実施報告 内 容：開催日・場所・参加人数・会の様子などを寄稿ください。
文字数：600字程度 写真：集合写真や会の様子が分かるもの

寄稿原稿の提出先

郵送の場合 〒671-2570 兵庫県宍粟市山崎町加生340
兵庫県立山崎高等学校 同窓会事務局 宛

メールの場合 メールアドレス ighq0619@hyogo-c.ed.jp (すべて半角英数文字)
※なるべくデータで文書、写真を提出していただけたら幸いです。

本会は、皆様にご協力頂いております協力金により、同窓会便り「山高」の発行ほか、会員相互の親睦・交流事業、後輩諸君への支援事業を実施しております。

皆様方の温かく力強い支えにより、これらの事業が安定的かつ継続的に運営されていることに、あらためて感謝申し上げます。今後とも、本会活動へのご支援並びにご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

令和5年度 同窓会便り発行収支報告書

収入の部

新聞発行協力金 2,118,732円

支出の部

印刷及び封入費 1,767,000円
宛名及び送料 2,813,216円
合計 4,580,216円

※不足分は同窓会一般会計から補填

編集後記

今年も無事に同窓会報「山高」を発行することができました。
今回も多く同窓会員の皆様から寄稿いただきました。ご協力いただきました方々に改めて感謝申し上げます。

さて、今までこの同窓会報「山高」の発行やさまざまな事業に携わっていただいた職員が退職されました。同窓会事務局として多岐にわたりその能力をいかんなく発揮されていきました。また、この「山高」は、編集委員会の皆様のご尽力無くして発行することはできません。本当に頭がさがる思いです。今まで何気なく見てきた「山高」。発行に携わってみて、初めて知る難しさや苦労を実感したことがあります。それは、この難しさや苦労や失敗が良いものを作る第一歩だということです。何回か繰り返し作ればそれなりのものが仕上がるとは思いますが、より良いものを作るには「難しさや苦労や失敗」があつて、そこに思うものがあつて良いものを作ろうと心に決め、その心が良いものを作る工夫をするのだと思いました。

今年も生徒たちの活躍が多くありました。男子バレーボール部の近畿大会出場。農業クラブの全国大会出場。また、表には現れませんが、日々のコツコツと行う活動が生徒を大きく成長させてくれ、心にうれしさを感じることがあります。これからも山高生としてしっかりと頑張ってください。エールを送ります。

山高の同窓生の絆を大切にしてより強くすること、同窓会を発展させていくための源の一つにこの同窓会報「山高」があると思います。これからも「山高」発行や多くの事業にご協力をお願いします。